

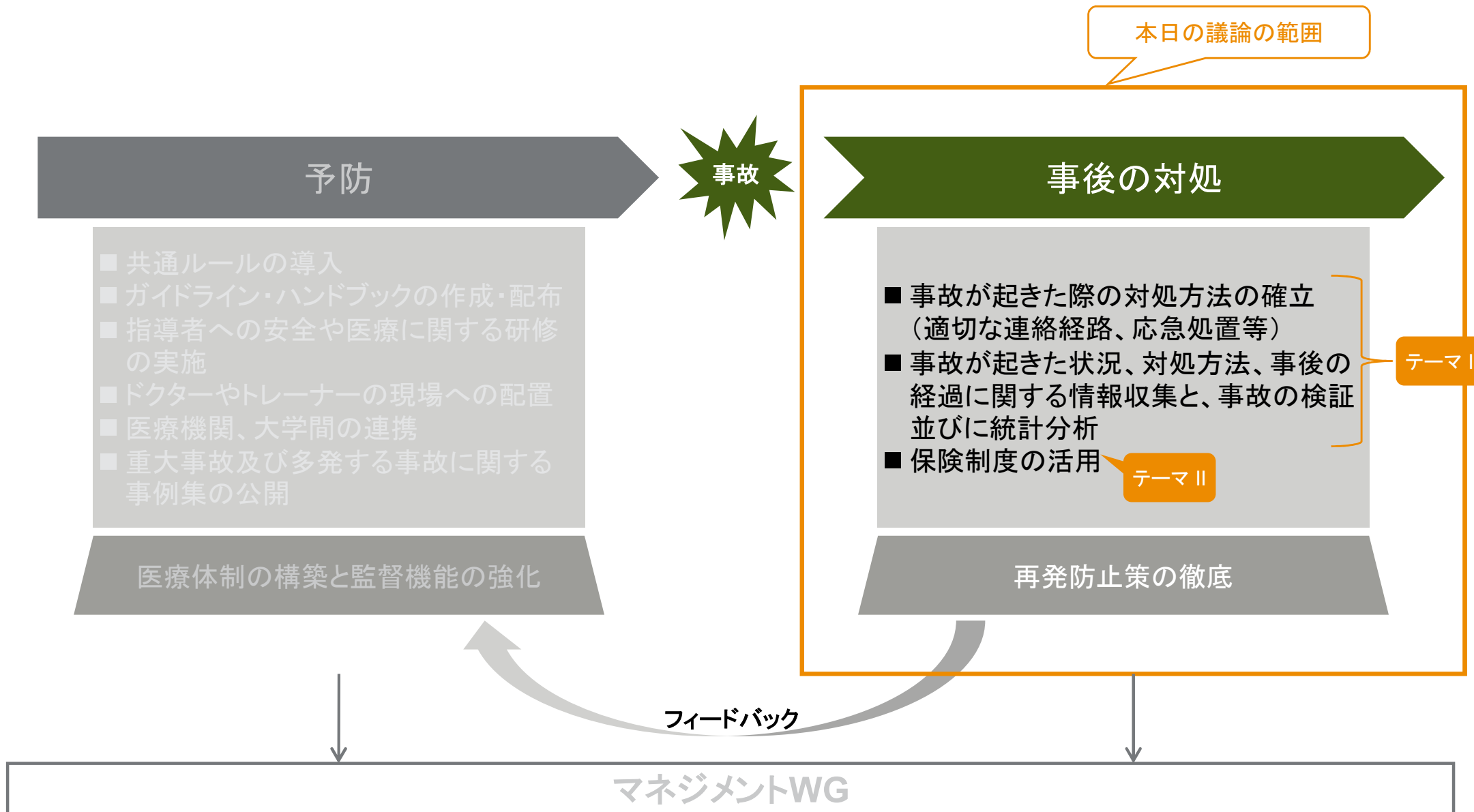
本日の討議テーマ

**日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第3回安全安心WG**

2018年1月12日(金)9時～12時

本日の議論の範囲全体像

本日は、事後の対処として、事故が起きた場合の「適切な対処方法」、次の予防につなげるための「情報収集・分析・活用」及び事故が起きてしまった際の負担を最小限にするための「保険制度の活用」について、討議をお願い致します。



本日の論点：(テーマ I) 事故への適切な対応と情報収集・分析・活用

I. 事故が起きた場合の「適切な対処方法」、 次の予防につなげるための「情報収集・分析・活用」について

問題意識

- 事故直後の対応方法(連絡先や連絡系統)が整備されておらず、迅速な事故対応ができていないのではないか。
- 様々な切り口の統計情報はあるが、「大学」の「スポーツ」という範囲で発生した事故情報を網羅的に収集する枠組みがない。
- 事故情報を収集する最終的な目的は、次の事故を未然に防ぐことにあるが、そのために果たすべき各主体の機能・役割が明確ではない。

論点

- ① 緊急時の対応についてどのような制度を構築する必要があるか。
- ② 事故情報を集めるにあたり、日本版NCAAとして、どのような収集経路を構築するのが望ましいか。
例：一次情報は、各大学が主体的に収集する必要がある／スポーツアドミニストレーターが一次情報を集約し、日本版NCAAに報告する
- ③ 事故情報収集の過程で、日本版NCAAはどのような機能を持つべきか。
例：情報を収集・編纂した上で、研究機関へ情報を提供するHUB機能／情報提供があった大学へ、類似事例や予防策を提供する情報提供機能

【討論の際の留意点】

- 主体者軸：日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸：実行すべき対策を短期(立上げから3年程度)で実施すべき(実施可能)事項と、中長期(3年~10年程度)で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他：対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙げられた場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる

本日の論点:(テーマII)保険制度の活用

II. 事故が起きてしまった際の負担を最小限にするための「保険制度の活用」について

問題意識

- 事故のリスクをゼロにすることは難しい中、安心してスポーツに取り組んでもらうためには、万が一の場合に備えて、保険加入が必要と考えられる。しかし、現在の大学スポーツでは、保険加入に関する共通ルールがないため、ルールを整備すべきではないか。
- 保険の支給状況等から事故のリスクを分析して、安全安心の確保につなげられることはできないか。

論点

- ① 大学選手や指導者等が安心してスポーツに取り組めるようにするために、日本版NCAAとして、保険加入の義務化等、米国NCAAを参考にあるべき保険制度に対してどのように向き合っていくべきか。

例: 日本版NCAA加盟大学における選手や指導者等の保険加入を義務化する/将来的な大学スポーツに必要な新たな補償の検討を行う

- ② 日本版NCAAとして、保険会社と連携して安全安心の制度構築のためにできる施策はあるか。

例: 保険会社から提供を受けた情報をもとに、大学スポーツに関する事故情報の整備

【討論の際の留意点】

- 主体者軸: 日本版NCAAが実施すべき事項と各大学で必要な仕組みや役割を分けて討議を実施
- 時間軸: 実行すべき対策を短期(立上げから3年程度)で実施すべき(実施可能)事項と、中長期(3年~10年程度)で実施すべき事項で分けて討議を取りまとめ
- その他: 対策を実施する上での障壁や課題、他論点が挙げられた場合もとりまとめ、また可能な限り各関係者にとってのメリットも取りまとめる